

# 第一部

## 「風花」

詩… 田井 淑江  
 曲… 高橋 通  
 歌… 鈴木 房江  
 箏… 高橋 澄子

## 「けやき並木」

詩… 藤井 慶子  
 曲… 田口 和行  
 歌… 伊東 剛  
 尺八… 元永 拓

## 「若葉」

## 「小さな光 — 灯籠流し」

詩… 木下 幸三  
 曲… 金藤 豊  
 歌… 和澤 康代  
 箏… 山本 亜美  
 尺八… 山下 孝太朗

## 「三井の晩鐘」

画家・三橋節子による  
 「祈りの花筏」連作より

詩… 木下 宣子  
 曲… 池上 眞吾  
 歌… 横山 政美  
 箏… 池上 眞吾  
 十七絃… 吉澤 延隆  
 尺八… 大河内 淳矢

# 第二部

## 「サボテンに たんぽぽ」

詩… 宮田 滋子  
 曲… 眼龍 義治  
 歌… 近藤 光江  
 箏… 身崎 有希子

## 「十月桜」

詩… 吉田 義昭  
 曲… 千秋 次郎  
 歌… 冷川 政利  
 二十絃… 重成 礼子

## 「懐郷その遙かな空を」

一、 曙光  
 二、 北條稲荷幻想  
 三、 母

詩… 貞松 肇子  
 曲… 増本 伎共子  
 歌… 青山 恵子  
 尺八… 小湊 昭尚  
 ヴァイオリン… 伊師 裕人

## 「荒涼たる帰宅」

詩… 高村 光太郎  
 曲… 田丸 彩和子  
 歌… 小畑 秀樹  
 篠笛・尺八… 設楽 瞬山  
 薩摩琵琶… 岩佐 鶴丈

ごあいさつ

一般社団法人 波の会 日本歌曲振興会 常務理事  
 「邦楽器とともに」代表 森田澄夫

本日はお忙しいなか、ご来場頂きましたことを、心より感謝申し上げます。  
 早いもので、当会が社団法人の認可を受けたその年にこの音楽会の企画がスタートして、丁度十年目を迎えます。会を重ねる毎に、この会に賛同して大変意欲的な詩人、作曲家、声楽家が参加し、会の充実に一役買ってくれているのは嬉しい限りです。

ご承知の通り現在、小中学校の音楽教育の一環として、伝統楽器の体験実習が行われております。そこでは子供たちのための、易しくて中身豊かな作品や、伝統的な古典の作品と現代の子供たちを繋ぐ曲などの教材の充実に久しく求められています。

この度、長い間、小中学校の邦楽器体験実習の現場に携わられている作曲家で、新たに当会に入会された方も作品を出されています。ここで生まれた作品が、教育の現場で声楽家が歌う鑑賞曲として演奏されたり、かつての赤い鳥運動で生まれた童謡や、宮城道雄の童曲のように、ここで邦楽歌曲を作った才能あふれた作曲家たちの手で、現代の子供たちに相応しい曲が作られ、学校の教材として子供たちに歌われる日をと、夢は広がるばかりです。

これからも「東西の融合、東から西への発信」という大きな目標に向かい、様々な課題を克服しながら邦楽奏者とともに手を携えて一歩一歩前進して参る所存です。  
 今後ともご指導ご鞭撻をお願いするとともに暖かいご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

【第八回「邦楽器とともに」実行委員】

中村綾子 青山恵子 鴨川太郎 木下宣子  
 千秋次郎 伊藤香代子 きむらみか  
 関根恵理子 高島和義 高橋久美子  
 田丸彩和子 藤井慶子 横山政美  
 吉田義昭 和澤康代 森田澄夫



◆ 風花

空には雪雲が無いのに、白いふわっとした雪が花びらのように風に吹かれて飛んでくる。いつの間にか、季節は冬が始まっている。

そんな風花が舞い落ちて来て、肌に触れる。何か冬の心が語りかけて来るような、そんな感触。冷たさを感じる前に、スツと融けてしまふ。儂い、淡い、冬の兆しが、人の心に語りかけてくるもの。きつと密やかで、どこかに熱い心を秘めている。

日本の伝統的な響きの中に、そんな感じを込めて歌曲にしました。

〔高橋 通(曲)〕

◆ けやき並木

樺はニレ科の落葉大高木で日本の代表的な広葉樹の一つである。特に武蔵野のけやきは有名で、何百年も前から屋敷林や街路樹として親しまれてきた。高さ四十メートルに達するものもあり、その偉容を誇ってきた。府中の大國魂神社の並木は国の天然記念物になっている。ここ武蔵野の台地にも二、三十年前までは道路の両側に鬱蒼と繁るけやきがあり、昼なお暗い道は怖さを感じるほどだった。しかし近年の都市開発の波に押され次から次へと、立派な木々が伐採された。何百年もかかって成長した見事な木々が一夜にして消されることは許し難く、心痛む。

〔藤井慶子(詩)〕

◆ 「若葉」「小さな光―灯籠流し」

「若葉」は一本の樹木の光輝く力強い生命力を感じさせる作品である。

この曲とは対照的に「小さな光―灯籠流し」は亡くなった命・魂を弔い、慰め、安らぎを祈るような作品である。夏の風物詩である京都の大堰川(桂川)の灯籠流しは七、八千の灯籠に精霊を乗せて極楽浄土へ送る意味がある。小さな光の数々は人の命のように一時輝く。未来がある命と亡くなった命もおこころの中に生き続ける命。硬質なお箏の音色と対照的な尺八の柔らかな音色とともに表現して参りたいと思います。〔和澤康代(歌)〕

◆ 三井の晩鐘

声楽の横山政美さんは、この九月に三橋節子美術館など四か所でコンサートツアーをなさる。それに向け、昨年発表の「祈りの花筏」に二作を加えた連作を準備した。癌で右腕を失い、迫りくる死に対峙しながら自分の作品世界を深めていった画家。「三井の晩鐘」はわが子への惜別の思いを、近江むかし話に託して描いた遺言絵の一つ。私がかつてこの画家の去りゆく姿に深い感銘を受けていた。今回の思いがけないご縁に感謝し、この連作を画家によるささやかなオマージュとした。美術評論家で画人伝を書いていた兄。遠い空から苦笑して、私を見ていることだろう。〔木下宣子(詩)〕

◆ 「サボテンに」「たんぼぼ」

眼龍義治先生に、詩集から二篇を選んで作曲して頂きました。「サボテンに」は、厳しい環境にも、愛情深く強く生きてゆく母親像を重ねて……。「たんぼぼ」は、会食の約束を果たせぬまま急逝された老詩人。折しも強風で綿毛が飛散したたんぼぼの群生に出合い、思わず心境を託しました。〔宮田滋子(詩)〕

宮田滋子先生の詩を頂戴した時、大変かわいいた詩でありながら、その中に秘められた豊かな感性に感動しました。当然五音旋法で創ることとし、「サボテンに」は陰旋法で、や、しつとりと歌います。「たんぼぼ」は陽旋法で、軽快な曲想としました。〔眼龍義治(曲)〕

◆ 十月桜

春になり、桜の花を見る度に、私たちはまた今年も春がやって来たと希望の心に満たされる。人は春になり、希望と願いを桜に託す。人が様々な場所で生きていくように、桜もこの国では沢山の種があり、人と寄り添って生きていく木である。一人一人、思い出の歌があるように、桜への思い出も人それぞれにあるだろう。「十月桜」は毎年、春と秋に咲く桜の花である。春だけでなく、秋にもまた、私たちの生きる姿勢を見つめながら、希望を伝えるに来るのだ。〔吉田義昭(詩)〕

◆ 懐郷その遙かな空を

貞松笠子氏の詩による歌曲の二作目。貞松氏はかねてから、青山恵子さんと私のために作品を書いてみたい、と言つて下さっていたので、今回の詩はそれに中たると思われる。いずれも、氏が長年過ごされたという小田原での想い出を書かれたものである(三曲目の歌詞は例外かもしれない)。曲に関してふれると、今回は、前二回の「箏」から離れて、尺八とヴァイオリンという編成で、これも今回初めての、若き男性奏者にお付き合い頂くこととなった。〔増本伎共子(曲)〕

◆ 荒涼たる帰宅

「智恵子抄」所収の「荒涼たる帰宅」は、高村光太郎の妻・智恵子の死から二年八か月後に書かれた作品で、智恵子の死の直後から、葬式、葬式の直後までの様子が描かれている。「智恵子の半生」の中で光太郎は、智恵子を失って空虚感にとりつかれていた自分が、何か月かが経った満月の夜に、智恵子はその個的存在を失う事によって却って自分にとっては普遍的存在となった事を痛感した、と言うようなことを述べている。「荒涼たる帰宅」の最後の一行がまさにこのことを暗示している、と思ひ、私はその思いに沿って作曲することにした。〔田丸彩和子(曲)〕